

神奈川の研究者紹介

氏名	桜井 智野風 (さくらい とものぶ)	
現職	桐蔭横浜大学 スポーツ科学研究科 教授 (博士 (運動生理学)、教育学修士)	
主な経歴	横浜国立大学大学院修了。東京都立大学助手、アメリカ・ウィスコンシン州立大学客員研究員、東京農業大学准教授を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	運動生理学、スポーツ科学、トレーニング科学 主に、遅れて発症する筋肉痛のメカニズム解明	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等)	<p>【著書】 「ハイパフォーマンスの科学」(NAP, 分担執筆. 2016) 「走りのサイエンス」(樫出版, 単著. 2016) 他</p> <p>【論文】 疲労困憊運動時および回復時の腹外側前頭野活動における一考察, 日本スポーツ健康科学会雑誌 Vol.2, P.27-35, 2015 The molecular mechanism underlying continuous exercise training-induced adaptive changes of lipolysis in white adipose cells. Journal of Obesity Vol.2015, Article ID 473430, 2015 他</p> <p>【委員・役員歴】 北海道教育委員会冬季スポーツジュニアアスリート育成協議会会長、網走市教育委員、日本体力医学会評議委員、日本生理学会評議員、日本トレーニング科学会理事、日本陸上競技連盟普及育成委員会幹事 他</p>	
神奈川県との 関わり	<p>「県内アスリートの栄養サポート事業」(平成 27 年～ 28 年度) 「『かながわパラスポーツ』普及推進」(平成 28 年度) 他</p>	
メッセージ	<p>【関心を持つ領域】 今、巷にはスポーツ科学に関する様々な情報が溢れています。私たちには、この情報に流される事無く、カラダは運動・スポーツによってどう変わるのかという真実を見極めることが必要と考えます。私たちのカラダの中でもっとも発達した器官と言っても過言ではない「骨格筋」についてわからないことはまだまだたくさん存在します。その中でも活動後に遅れてやってくる「筋肉痛」は未だ明らかになっていない現象です。この解明が私のライフワークでもあり、筋肉痛をより分かりやすく説明することが出来るように研究を続けています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 神奈川県は私が生まれ育ったところです。2020 年の東京オリンピックに向け、本県の「スポーツ科学」が日本を牽引するとともに、その成果により県民が健康に暮らせる社会の構築に貢献できるような連携事業を期待しています。</p>	
連絡先	<p>〒 225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 電話：045-974-5846 E-mail：sakurai@toin.ac.jp</p>	

神奈川の研究者紹介

氏名	萩原 啓実 (はぎわら ひろみ)	
現職	桐蔭横浜大学医用工学部 教授	
主な経歴	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授 米国バンダービルト大学医学部研究員	
専攻分野・研究テーマ	生化学、細胞生理学・①天然物が代謝と疾病に及ぼす影響（骨粗鬆症、肥満、癌など）② Zfp318 遺伝子の KO マウスによる解析	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等)	<p>① Abnormal Spermatogenesis and Male Infertility in Testicular Zinc Finger Protein ZFP318-knockout Mouse. <i>Development Growth & Differentiation</i>, 58, 600-608 (2016)</p> <p>② Apigenin Inhibits Osteoblastogenesis and Osteoclastogenesis and Prevents Bone Loss in Ovariectomized Mice. <i>Cytotechnology</i>, 67 (2), 357-365 (2015)</p> <p>③ Zinc-finger Protein ZFP318 Is Essential for Expression of IgD, the Alternatively Spliced Igh Product Made by Mature B Lymphocytes. <i>Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.</i> 111 (12), 4513-4518 (2014)</p> <p>④ Carnosic Acid Inhibits the Formation of Osteoclasts through Attenuation of Expression of RANKL. <i>PharmaNutrition</i>, 3 (1), 1-6 (2015)</p>	
神奈川県との 関わり	平成 22 年～ 24 年 横浜地方裁判所委員 毎年本学で開催している桐蔭医用工学国際シンポジウムで共催をお願いしている。	
メッセージ	<p>現在関心があるのは、天然物（ポリフェノール類）が骨粗鬆症や肥満などの生活習慣病への予防・治療に効果があることを見つけているので、そのメカニズムを解明することと癌細胞の増殖・転移への影響について研究すること。</p> <p>神奈川県が橋渡しとなり県内の大学・企業との連携が図れることを望んでいる。学内の研究者の情報については大学のホームページ (http://toin.ac.jp/univ/) で閲覧することが可能である。</p>	
連絡先	〒 225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 桐蔭横浜大学・医用工学部生命医工学科 電話：045-974-5057 (直通) E-mail : hagiwara@toin.ac.jp Homepage : http://www.cc.toin.ac.jp/sc/hagiwara/	